

# 令和5年度事業・活動報告

特定非営利活動法人 旭川 NPO サポートセンター

## 【事業の成果】

地球温暖化の影響による日本のみならず世界各地の異常な暑さや、先が見えないロシア・ウクライナ間の戦闘、イスラエルによるガザへの侵攻など、世界情勢は不穏な状況にあります。国内を見ても新年早々能登半島地震や日航機の事故、円安による物価高、政治家による裏金問題など、暗いニュースばかりです。明るいニュースと言えば野球の大谷選手の活躍や、わが街旭川出身の槍投げの北口選手の活躍に心が癒される日々です。何げない日常の生活がいかに大切に、貴重なものか身に染みる一年でした。

旭川 NPO サポートセンターが指定管理をしている旭川市市民活動交流センターCoCoDe も、コロナが5類に移行してからは、徐々に利用者が増加傾向にありコロナ前の状況に戻りつつあります。

世界的規模の課題や地域の課題の解決に市民団体が果たす役割はますます重要となってきています。そのために出来る支援に取り組んでまいりました。

### ■事業名 (旭川市指定管理事業)

旭川市市民活動交流センター指定管理業務

■NPO 法人旭川 NPO サポートセンター

## 【目的】

旭川市市民活動交流センターCoCoDe に関して、

- 1) 施設の使用承認／管理運営／維持管理
- 2) 市民活動団体の登録
- 3) 市民活動に関する情報収集・提供／相談・コーディネート／学習機会の提供／交流及び協働の促進
- 4) その他自主事業等



秋の CoCoDe まつり

## 【事業期間】

令和5年4月1日～令和6年3月31日

### 【事業内容・事業成果・課題等】

#### 1) 施設の使用承認／管理運営／維持管理について

- ① 利用件数 3,054 件、利用者数 56,048 名、利用料金 9,890,981 円。  
(前年度 利用件数 3,375 件、利用者数 39,167 名、利用料金 8,837,752 円)。
- ② 施設清掃業務、施設敷地内管理業務、点検等その他業務について所定通り実施。

#### 2) 市民活動団体の登録について

- ① 市民活動情報サイト登録 268 件 (前年度 237 件)
- ② 市民活動交流センター登録 (団体) 424 件 (前年度 397 件)
- ③ 市民活動交流センター登録 (個人) 0 件 (前年度 0 件)

### 3) 市民活動に関する情報収集・提供

#### ① CoCoDe 通信の発行～毎月 1,000 部

#### ② 利用者懇談会

**6/27、11/28 実施 参加 6月-7名、11月-8名**

前期と後期に分けて実施。前半期の実績報告と次半期の計画報告を行った。また、現在 CoCoDe が抱えている課題について利用者意見を伺った。

#### ③ 労働者協同組合法セミナー 新しい起業のカタチ

**5/13 実施 参加 8名**

2022 年 10 月 1 日より施行された労働者協同組合法について、同法律に基づいて「労働者協同組合ケアワーカーズコープ北海道」を設立された代表理事の佐藤友彦様をお迎えし、新しい起業の一つの形態として、その特徴などを紹介していただいた。

#### ④ CoCoDe トークサロン

**4/18、6/16、12/4、2/16 実施 参加 4/18-25名、6/16-23名、12/4-7名、2/16-9名**

・4/18 東神楽町の地域おこし協力隊員の大七菜海様をお招きし、何故、東神楽へ移住し、地域おこし協力隊員となったか、東神楽大学事業、東神楽町 100 人会議とは何か、について紹介してもらった。また、グラフィックレコーディングを行う櫻井まい様、名物 MC の池澤久美様とのトークセッションは興味深いものであった。

・6/16 「郷土史から生まれた漫画と舞台～創作の現場から～」と題して、漫画家の日野あかね様と、旭川歴史市民劇で脚本兼総合プロデューサーを務めた郷土史ライター的那須敦志様をお招きし、大正末から昭和初期にかけて若き才能が集まった、「ゴールデンエイジ」と呼ばれる当時の旭川を舞台に作品を手掛けた 2 人の表現者に、創作への想いをお聞きしました。

・12/4 北海道日本トルコ友好協会会長の山田栄治様をお招きし、日本とトルコの関係、トルコ語の面白さ、日常生活や文化、イスラム教のことなど、興味深いお話をお聞きした。

・2/16 サイエンスボランティア旭川／旭川天文同好会の富樫一憲様から、①ジェームズ・ウェッブ宇宙望遠鏡について、②天の川銀河中心のブラックホール [いて座 A★]、③旭川天文同好会の活動について、お話を伺った。壮大なお話の中にもかかわらず物理法則が成立しているところが興味深かった。

### 4) 相談・コーディネート

#### ① 日常の相談・コーディネート～NPO 設立運営相談等。

相談総数 92 件。(内訳：個人 24 件、市民活動団体 63 件、企業 5 件)。(前年度 112 件)

#### ② 会計決算相談会

**3/17 実施 参加 7名**

佐藤はるみ税理士をお招きし、個別の団体毎に決算書類の見方、作成の仕方、抱えている課題等について相談があり、指導していただいた。

#### 5) 学習機会の提供について

##### ① 大分・旭川 子ども若者支援交流会ふかぼり篇

5/17、5/31、6/24、6/28、7/12、7/26 実施

参加 5/17 - 25名、5/31 - 26名、6/24 - 24名、6/28 - 26名、7/12 - 37名、7/26 - 35名  
全6回開催する講座うち各論は4回になっており初回はそのプログラム内容の説明。講座の性質上各論点（ゾーン）を毎回に分けて説明はするが、対象となる被支援者は複数のゾーンに跨ることがあり我々の支援は空間的、時間的にも「連続性」的支援を前面に押し出すことが肝心である、といった内容であった。

##### ② ハンセン病問題から学ぶこと ～知っていますか？ハンセン病問題～

9/9 実施 参加 20名

国立ハンセン病資料館の西浦直子学芸員をお迎えし、ハンセン病による差別や教訓として未来に伝えたいことについて学ぶ講演会を実施した。

##### ③ あさひかわ防災まなびナイト／防災人カフェ Vol.1

1/19 実施 参加 23名

「あさひかわ防災まなびナイト」と「防災人カフェ Vol.1」の2部構成で実施した。前者は札幌市から防災ライフプランナーの水口綾香氏を招き、「日々の暮らしの中の防災」について語っていただいた。後者は釧路市より辻川氏をお招きし、防災士を中心としたネットワークづくりについて語っていただいた。

##### ④ オンラインセミナー 激変する社会を乗り越えるヒント

～自己肯定感を育てて、自分らしく生きる～「道立市民活動促進センター共催事業」

3/24 実施 参加 14名

HEALホリスティック教育実践研究所所長／堺市立男女共同参画センター館長の金氏を講師としたオンラインセミナー。仕事やくらしの中で毎日元気に自分らしく生きるための考え方や行動の仕方をWS等を通して学んだ。

#### 4) 交流および協働の促進について

##### ① CoCoDe こどもの日スタンプラリー

5/5 実施 参加 91名

昨年度新型コロナ感染拡大で中止されたキッズワールドの代わりに完全事前予約制で実施された。十分に新型コロナ感染拡大予防対策、リスク対策が施された他、アンケート結果を見ても、参加者の満足度が高いものとなった。

##### ② キャンドルナイト in 旭川

6/24 実施 参加 168名

キャンドルを灯してスローな夜を楽しむエコイベント。電気を消してエコな時間を過ごすのが目的。ミュージックフェスタ（Merenda、Crystal of Joy）やばかりっこ市、天体観測を実施した。

##### ③ クリスマスキャンドルナイト

12/16 実施 参加 150名

電気を消して、スローな夜を過ごそうをスローガンにキャンドルナイトを開催した。ステージイベントでは、4組のステージ出演があった。

リサイクルギフト市は、古着や古本、雑貨など無料でお持ち帰りいただいた。

## 自主事業等について

### ① ココデカフェの営業

施設利用者の利便性とサービス向上を目的に、5月9日より10月31日まで、共用ロビーにおいて飲食の提供をしました。少しずつ認知されてきて、楽しみにして下さっている利用者はいますが、まだまだ広報不足の面があります。

### ■事業名 (旭川市及び周辺8町委託事業)

ファミリーサポートセンター事業

・上川中部子ども緊急さぼねっと事業

■NPO法人旭川NPOサポートセンター



### 【目的】

旭川市より受託したファミリーサポートセンター「育児型」は子育ての援助を受けたい方と援助を行いたい方が会員になり、お互いに地域の中で助け合いながら子育てをする会員制の相互援助活動を行う。また1市8町(本年度から美瑛町が加入)から受託した「上川中部子ども緊急さぼねっと」は宿泊を含め、病児・病後児の預かり、臨時的・突発的なニーズに予め登録している地域の人が子どもを預かる事業で、子どもを預かって欲しい人との橋渡しを行うことにより、地域の子育て支援・児童の福祉の向上を図ることを目的としている。



### 【事業期間】

令和5年4月1日～令和6年3月31日

### ◎ファミリーサポートセンター「育児型」

- 1) 会員の募集、登録業務
- 2) ハローワーク、保育所、学童保育施設等に周知広報

新型コロナウイルス感染症は5類に移行したが、周知広報は縮小され母子保健課乳幼児4か月健診時の対面事業説明は令和2年から禁止となっている。

- 3) 子育て支援者養成講座実施(「上川中部子ども緊急さぼねっと」との合同養成講座)

#### 前期子育て支援者養成講座

日程：5月11日.12日.15日.16日.17日.18日

講座数：13講座、26時間 参加者：17名

#### 後期子育て支援者養成講座

日程：10月17日.18日.19日.23日.24日.25日

講座数：13講座、26時間 参加者：14名

- 4) 依頼会員と提供会員の事前打ち合わせの調整
- 5) 依頼時の相互援助の連絡調整
- 6) 会員の交流・情報交換・意見交流会実施（上川中部子ども緊急さぼねっとスタッフとファミリーサポートセンター提供会員合同研修会）
  - 1回目 日 時：令和5年7月3日（月） 参加者：21名  
講 師：旭川NPOサポートセンター 佐藤 知加  
内 容：遊べるカード作り，手遊び
  - 2回目 日 時：令和5年11月20日（月） 参加者：24名  
内 容：「モルック」体験と交流  
講 師：旭川市立大学モルック同好会
  - 3回目 日 時：令和6年3月14日（木） 参加者：72名  
内 容：事業説明と交流会
- 7) 関係機関等との情報交換、連携を図るための会議
- 8) サブリーダーの情報交換を行うサブリーダー会議実施
- 9) 月毎に市へ報告及び助成請求
- 10) 年1回通信「育輪」発行

【事業成果】

1) 会員数 依頼会員：1,591名 提供会員：201名 両方会員：39名

総会員数 **1,831名**

2) 依頼総件数 2,087件（キャンセル 110件）

援助総件数 **1,977件**（R4年度 1,676件）

①	保育所・幼稚園の登園前の預かり及び送り	635件	⑦	子供の習い事等の場合の援助	332件
②	保育所・幼稚園の迎え及び帰宅後の預かり	469件	⑧	保育所・学校等の休み時の援助	3件
③	学童の登校前の預かり及び送り	52件	⑨	冠婚葬祭や学校行事の場合の援助	0件
④	学童の放課後の迎え及び帰宅後の預かり	34件	⑩	保護者等の外出の場合の援助	36件
⑤	学童保育前の預かり及び送り	46件	⑩	保護者等の仕事の場合の援助	202件
⑥	学童保育の迎え及び帰宅後の預かり	61件	⑪	その他	107件

◎上川中部こども緊急さぼねっと

【事業内容】

- 1) 会員の募集、登録業務（1市8町）
- 2) 2)3)5)6)7)9)10)はファミリーサポートセンター「育児型」と合同事業内容
- 4) 利用会員入会手続及びスタッフ会員登録及び更新手続業務
- 8) 月1回「すりーAの会」実施（開催日不定）7回（研修会、意見交流会等）参加者41名

【事業成果】

1) 会員数 利用会員：1,815名 スタッフ会員：194名

総会員数 **2,009名**

2) 依頼総件数 2,540件（キャンセル584件）

コーディネート件数 **1,956件**（前年度 1,278件）

病気預かり 201件 宿泊 54件

元気預かり 1,598件 送迎 103件

【課題】

ファミリーサポートセンター「育児型」の利用件数7割は提供会員の自家用車使用での送迎である。提供会員は事故の不安から、自家用車の使用を拒否する方が増えている。事務所としても無理に依頼もできず悩ましいところである。旭川市内にはタクシー会社2社が子育てタクシーを提供しており、そちらの利用を促すが旭川市の助成制度が無いので親御さんにとっては負担増である。行政には情報提供はしているが何の改善もないまま今日まできている。

緊急さぼねっとは新型コロナウイルス感染症5類移行となったがコロナによる病児預かりは不可となっている。本年度元気預かりの件数が増加もしており、親御さんの仕事による預かりは当然ながら、リフレッシュとしての利用も多くなり、子育て中の母親にとっては必要不可欠な制度と思われる。

今後も、子育て支援者養成講座で支援者の登録者が増えることを期待したい。周知活動も含め、子育て世代に安心安全なサポートが提供できるよう努めていきたいと考えている。

■事業名 (旭川市委託事業)  
旭川市母子家庭等日常生活支援事業  
■NPO 法人旭川 NPO サポートセンター



【目的】

様々な事由により、一時的に日常生活に支障が生じている場合や生活環境等の激変により、日常生活を営むのに特に大きな支障が生じている場合に、その生活を支援する者を派遣するなどして、母子家庭及び父子家庭の生活の安定を図ることを目的としている。

【事業期間】

令和5年4月1日～令和6年3月31日

【事業内容】

- 1) 依頼時の利用者と家庭生活支援員の生活援助及び子育て支援の連絡調整実施
- 2) 関係機関との情報交換、連携を図るための会議実施
- 3) 月毎に市へ報告及び利用料の申請実施
- 4) 家庭生活支援員資格者の手続き実施

【事業成果・課題】

- ① 会員数 利用会員登録：28名 家庭生活支援員：14名 子育て支援員：31名
- ② 利用状況 生活支援 364件（前年度 301件） 子育て支援 101件（前年度 67件）  
**利用合計 465件**

何かしらの疾患を抱えている方が多く、住居の清掃や食事の準備もできず生活環境が劣悪な状態となっており、生活支援や子育て支援を行っている。また、父子家庭が生活環境の変化に中々ついていけず、利用が増えている。

子育て支援は特にリフレッシュで利用希望者が多く子どもの成長に寄り添えず、旭川市子ども総合相談センターと連携を取りながら支援する家庭の増加がみられる。

■事業名 (旭川市委託事業)

子育て交流活動推進事業実施業務

■NPO 法人旭川 NPO サポートセンター

3 すべての人に  
健康と福祉を



【目的】

子育ては親だけでなく、地域社会全体の支えが大切ということから、子育てに関する、様々な関係機関や団体などが連携して、保育所や、幼稚園に通っていない児童を家庭において養育している全ての保護者がいつでも子育てについて相談でき、また、保護者同士や子育て経験者等と交流できる環境づくりを行う。

旭川市内には子育て中の親が自主的に活動する育児サークルや、地域住民で子育てを支援する子育てサロンがあり、それらの団体に対して活動の際の会場費の補助を行う。また子育て支援を望む団体・個人が人材バンクに登録し、育児サークルや子育てサロンの託児や、特技等でサポートを行う際のコーディネートを行い子育て環境の充実に寄与する。

【事業期間】

令和5年4月1日～令和6年3月31日

- 1) 登録している育児サークルに対する支援を地域子育て支援センターと連携して行う。  
会場費補助 60件、16,550円
- 2) 育児サークルへの支援員の派遣 支援員派遣数 14件 支援員派遣者数 33件の派遣
- 3) 育児サークル合同イベント(わんぱくフェス) 日時 6月17日(土) 参加者: 142名
- 4) 育児サークル事業説明会 日時 6月1日(木) 参加者: 10名
- 5) 育児サロン事業説明会 日時 6月14日(水) 参加者: 22名
- 6) 子育てサロンへの支援  
会場費補助 33件、51,940円  
支援員派遣数 3件、支援員派遣者数 3名
- 7) 子育てサロン意見交換会 日時 11月17日(金) 参加者 18名
- 8) その他の支援  
子育て支援センター、児童センター、留守家庭児童会、市立保育所、保健所等  
支援員派遣数 36件、支援員派遣者数 95件
- 9) 子育て人材バンクの登録 120名
- 10) 育児サークル・子育てサロンの支援に関するニーズ調査及び分析

育児サークルは母親の就労で保育園入所や満3歳で幼稚園入園可能なこともあり、解散に至ったサークルがあった。親御さんにとって、現にある育児サークルが魅力あるものとなる様、子育て支援センターの先生方の協力を得ながら継続的な支援をしていく必要がある。

子育てサロンもサークル同様、参加者も少なくなり、運営費不足、後継者不足等の現状も踏まえた上で、より一層旭川市から補助を得られるよう支援を押し量りながら継続につなげていきたいと思っていたが、新型コロナウイルス感染拡大予防のため開催が激減し、主催者には残念な年となった。

■事業名 (社団法人北海道医師会)

北海道に在住する医師を対象とした緊急時保育支援事業

■NPO 法人旭川 NPO サポートセンター

3 すべての人に  
健康と福祉を



【目的】

子育て中の医師の仕事と家庭を両立させるためのサポートで、利用者が緊急に支援を必要とするとき、北海道医師会が利用者に代わって旭川 NPO サポートセンターに依頼するもので、女性医師等の働く環境を整えることによりキャリアの継続に寄与することを目的とする。

【事業期間】

令和 5 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日

【事業内容・事業成果】

1) 事業内容は上川中部こども緊急さぽねっとに準ずる。

登録医師	21 名
利用件数	23 件
利用時間	54.5 時間

登録にあたっては、ファミリーサポートセンターの登録時に情報提供し、入会登録を促す。旭川市に於いてはファミリーサポートセンター事業が充実しており、また助成制度もあるために北海道医師会からの利用券を使用せずとも女性医師等にとってはキャリア継続できる環境が整っている。

■事業名 産前・産後ケア

■NPO 法人旭川 NPO サポートセンター

3 すべての人に  
健康と福祉を



【目的】

赤ちゃんとの対面で喜び、楽しいはずの出産が、出産後に情緒不安定、不眠、不安、ふさぎ込む、注意散漫、イライラ等、産後うつになっていく母親が少なからずいる。核家族化が進み、希薄な人間関係の中、母親自身の経験不足などで出産・育児が辛いものになってきている。育児支援を実施している中で、産前産後、不安でいっぱいの母親へ寄り添う支援の必要性を感じてきた。子育て経験者である支援者だからできるお手伝いによって、そうした母親への自信回復の一助となることを目的とする。

【事業期間】

令和 5 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日

令和5年度依頼件数 0件

妊娠・出産により精神的に不安定になりやすい時期の家事をサポートする事業。転勤族の方や、祖父母がいても仕事をしているなど昔のように頼れる人も少なく、スタッフは感謝されている。また、里帰り出産時の依頼も受け入れている。

■事業名 (旭川市委託事業)

旭川市産前・産後ヘルパー事業

■NPO 法人旭川 NPO サポートセンター

3 すべての人に  
健康と福祉を



### 【目的】

ヘルパー事業は妊娠中及び出産後、母親の体調不良等のため、家事や育児の援助を必要とする家庭にヘルパーが支援を実施することにより、子育て家庭の身体的・精神的負担の軽減を図ることを目的とする。

### 【事業期間】

令和5年4月1日～令和6年3月31日

1) 旭川市産前・産後ヘルパー事業従事者向け事業説明会及び研修会

日 時：令和5年7月3日(月) 10:00～12:00

参加者：21名

2) 利用の申込みを受付け、事業説明

3) 初回時面談(聞き取り)

4) サービス実施、自己負担額の徴収(500円)

5) 月毎に実施報告及び委託料請求

### 【事業成果・課題】

利用人数：91名 利用延べ回数：286回

1回の出産につき、産前から1歳の誕生日までの期間に20回(多児の場合40回)家事や育児に関することで利用が可能である。希望する事業所に申込みをして家事や育児の支援をしてもらう仕組みである。

妊娠中及び出産後、母親は体調不良等から身体的・精神的に不安定になりやすい。自宅に人を招くことを躊躇するところもあったが、母親に寄り添った支援をするので、もう少し早くから利用すると良かったとの声を聞くと周知活動は丁寧にするべきである。

■事業名 こども食堂開設

子ども食堂&地域食堂

■NPO 法人旭川 NPO サポートセンター

3 すべての人に  
健康と福祉を



コロナ感染症が5類に移行した後も、親子の利用希望が多く「食と学びで子どもを支える子ども食堂」

を昨年に引き続き開設しました。コロナ前と同様に手作りの食事を提供すると同時に、高校生や大学生による学習支援や遊びの場の提供も行いました。また地域のシニアの方も参加できる地域食堂の機会も設けました。

**【事業期間】**

令和5年4月～令和6年3月

**【事業内容】**

実施回数：4月22日、5月13日、6月24日、7月17日、8月26日、9月30日

10月28日、11月23日、12月16日、1月13日、2月24日、3月16日 計12回

実施時間：11：00～13：00

参加者数：延342名

会場：旭川市市民活動交流センターCoCoDe

**【成果】**

今年度から大人からは100円の参加費を頂くことにしました。また地域のシニアの希望もあり、12月、1月は地域食堂として、地域の方にもご参加いただきました。子どもたちは学生ボランティアとの学びや遊びを通して異世代交流を楽しんだり、親同士は情報交換の場になる等、リフレッシュできる環境の提供を行うことができました。

■事業名 空き家整理の担い手に！生活困窮者の自立支援事業

■自主事業

8 働きがいも  
経済成長も



**【目的】**

前年度まで3年間の休眠預金の助成事業が終了後も、生活困窮者の自立支援につながるということで継続を望む関係機関からの要望もあり、実施しました。これまでの事業実績により行政や地域包括支援センターなど各方面に周知されてきたこともあり、リピーターからのご依頼や、新規のご依頼がありました。

**【事業期間】**

令和5年4月1日～令和6年3月31日

### 【内容】

空き家整理事業に登録する20代～60代までの生活困窮者が約40名おり、この方たちに空き家整理や、荷物運搬、空家管理、草刈り、清掃、除雪などの作業を実施してもらいました。

相談受付数：延60件 うち依頼数47件

参加人数：26名、延作業人数313人、延作業日数94日、延べ作業時間 1,057時間

### 【成果と課題】

空き家対策事業に、今年度新たに8名の生活困窮者が参加されました。また7名の方が職につきましたが、何らかの理由で続かなかった方もいらっしゃいます。中には非常に能力も体力もあり、すぐにでも就職に結びつきそうな方もいらっしゃいます。しかしながらそれぞれ深い事情を抱えて参加されていますので、成果をすぐ期待する事は困難と思われます。ただ当事業を通して、孤立の解消や、賃金を支払することで生活環境の向上に繋がっていると思えます。

#### ■事業名

JR 宗谷線車内販売事業(主催:旭川市・旭川物産協会)

#### ■協力事業

11 住み続けられるまちづくりを



【目的】JR 宗谷線周辺地域の活性化を目指し、地元の特産品の車内販売を通じて、障がい者などの雇用の場の多様化やJRの利用促進、魅力アップを図る。コロナ感染症が収束後も、乗客数が少なく、改善も見込めないため、11月で終了しました。

#### 【事業期間】

5月13日(土)、6月10日(土)、7月1日(土)、8月19日(土)、9月2日(土)、11月11日(土)

### 【内容】

月1回、JR 特急宗谷に乗車して、旭川～美深間で旭川の特産品をNPO 法人ひだまりの会の利用者に車内販売してもらいました。

### 【成果と課題】

鉄道が好きで参加する利用者もいますが、列車内の乗客が少なく、売り上げもはかばかしくないため、令和5年11月をもって終了しました。

#### ■事業名

みんなが笑顔になる地域を作り、広げるあったかい

#### ■助成金事業

1 貧困をなくそう



### (1)令和5年度社会福祉振興助成事業

#### 【目的】

ひとり親が地域で孤立し困窮しないことを目的に、講習会やピアサポートを通して自立を目指し職や体験等の支援を総合的に行う事業。

【事業期間】令和5年4月1日～令和6年3月31日

#### 【事業内容】

- ①講演会 7月16日、8月27日、10月28日、11月26日、1月8日 計5回
- ②食料支援 7月、12月、3月 計3回
- ③ 学習支援 週1回程度開催。11月23日にダンス会、3月16日にごはん付き学習会を実施
- ④リサイクル市 6月24日 計1回
- ⑤ピアサポート 7月16日、8月27日、10月28日、11月26日 計4回
- ⑥キャンプ体験 11月18・19日と2月10・11日にNPO法人大雪自然学校と協力し計2回実施

支援家庭（延数）・人数（延数）：505世帯・1,358人（親も含む）

**【成果】**

広く告知はしていないが助成金範囲内で、応募されたひとり親家庭に食べ物を届けることが出来て、今年度は更に学用品の無償配布も行い親子から喜ばれた。

更にアンケートでは、困窮状況が凡そ分かり今後の助成事業に活かしていきたい。

今後の課題としては、助成金頼りの事業であるため、助成金に頼らない支援方法を他団体と共に検討・調査をしていく。

**■ 事業名**

北の国災害サポートチーム協力事業

**■ 協力事業**



**【目的】**

旭川NPOサポートセンターが幹事団体として参加している北の国災害サポートチーム（通称きたサポ）は、札幌／函館／室蘭／釧路の中間支援団体と災害支援を担う各種専門団体からなり、多様な主体間の連携強化に向けた平時からのネットワーク構築支援や、企業・NPO等による支援力の強化を目的とした活動を行っています。

**【内容】**

今年度は旭川NPOサポートセンターが主体的に取り組んだ事業はありませんでした（注1）。北の国災害サポートチームは、9月5日に「北海道フォーラム」を、また、3/7、3/14、3/21は「きたサポ研修会」を開催しました。前者は全国から83名の人が参加され、TV等で報道もされ

ました。後者は生業支援、災害ボランティアセンター運営、食と栄養というテーマで開催し、多数の参加者がいました。旭川NPOサポートセンターは広報、当日の運営、報告書作成という形で協力参加しました。

今年度は年明け早々に能登半島地震がありました。他のメンバーは先方の依頼を受けながら、技術支援や募金、事務作業支援等できることで支援活動をしていました。それにまったく関われなかったことが残念に思われます。また、北の国災害サポートチーム内では、被災時のことを考慮すれば、各団体2名の人員が関わるようにできないか、と言うことが課題になりました。

(注1) 防災関連事業としては、北の国災害サポートチーム協力事業外で1/19に「あさひかわ防災まなびナイト／防災人カフェ Vol.1」を実施している。

■事業名

New Project 農福連携事業

■旭川NPOサポートセンター

【目的】

今年度、障がい者や生活困窮者の働く場の選択を広げるために、農業に取り組みました。

【事業期間】 令和5年4月1日～令和6年3月31日

【内容】

実施時期：5月～11月

神居町雨紛に耕作放棄地を購入して、農作物の植え付けから収穫までを、障がい者や生活困窮者の方に担っていただき、収穫した野菜等はNPO法人ひだまりの会に買い取りをしていただきました。また、上川町の農家さんより農業用ハウスの骨組みを頂きました。

【成果と課題】

購入した土地は石が多く、除礫が十分にできなかったため、土地の半分は作付けがうまくできませんでした。鹿などの害獣により、植え付けしたとうもろこしなどがほとんど収穫できなかった一方、人参、かぼちゃなど収量が多い作物もありました。

■事業名

女性活躍基盤づくり事業(多様性受容)実施業務

■旭川市女性活躍推進部女性活躍推進課委託

【目的】

男女共同参画社会の実現に向けて啓発講座を実施し、アンコンシャス・バイヤス。ジェンダー・バイヤス等、固定観念によらず、多様な生き方や価値観を受け容れるとともに、自分自身を

見つめ直しエンパワメントする手法を学ぶ機会を提供することにより、男女共同参画意識を高めるとともに女性活躍の基盤となる意識醸成を図る。

【事業期間】 令和5年6月21日～6年2月29日

【内容】

テーマ①当たり前と思っていることが当たり前でない男子と女子の関係！

第1回目 7月29日(土)16:00~17:30 陽の当らなかった女性作曲家たちピアノコンサート

講師：石本裕子さん(ピアニスト)

参加者：58名

第2回目 7月30日(日)15:00~17:30 キミたちを待っているのはどんな社会か？

第1部講演

講師：上野千鶴子さん(東京大学名誉教授)

第2部パネルディスカッション

参加者：112名

第3回目 8月20日(日)13:30~15:00 愛と差別と友情と LGBTQ+

講師：北丸雄二さん(ジャーナリスト)

参加者：39名

テーマ②自分をまるごと愛して・育てるエンパワメントプログラム

第1回目 8月26日(土)13:00~16:00 第2回目 10月1日(日) 第3回目 10月29日(日)

講師：金香百合さん(ホリスティック教育実践研究所所長・堺市男女共同参画センター館長)

延参加者：75名